

「南三陸モアイ化計画」

平成25年6月

宮城県志津川高校情報ビジネス科

南三陸町のモアイ像

南三陸町にはモアイ像がありますが、そこには歴史的背景があります。1960年にチリ共和国を襲った巨大地震は、大きな津波を引き起こし、はるか地球の裏側にある南三陸町を襲いました。それから30年後の1990年、当時の駐日チリ大使は本町を訪れ、友好のメッセージを贈ったことから、チリ共和国との交流が始まり、1991年にモアイ像が本町の松原公園に設置されました。

地域活性化を目標に「南三陸モアイ化計画」スタート

本校情報ビジネス科の授業「課題研究」では、平成22年度から地域活性化を目的とした「南三陸モアイ化計画」をスタートさせ、モアイ像を活用した商品開発や町のPR活動、さらには防災意識の高揚に役立てたり、チリ共和国との国際交流を図ろうと取り組んできました。生徒たちは、モアイキャラクターを考案して商品を製作したり、色々な町の行事に参加するなど幅広い活動を行ってきました。少しずつ生徒たちの取り組みが、町に浸透しつつあった矢先のことでした。平成23年3月11日、あの東日本大震災が発生し、町は壊滅状態となってしまいました。この活動もここで終わってしまうのかと思いましたが、周囲からの励ましにより、なんとか継続することができています。また、11月には、震災で吹き飛ばされていたモアイ像の頭部が救出され、志津川高校に運び込まれました。現在は、大事に本校で保管しています。震災後の本校の取り組みは、復興支援のために缶バッジやストラップを製作・販売し、その収益金で町民バスを購入して町に寄贈したいと考え、一所懸命取り組んでいます。



缶バッジ制作中



缶バッジ



旧モアイ像



破壊されたモアイ像



モアイの焼き菓子



破壊された住民バス

チリ共和国大統領来校

平成24年3月30日、チリ共和国ピニェラ大統領が本校を訪れ、新しいモアイ像を製作・寄贈することを表明しました。このことは、南三陸町に勇気と希望をいただき、生徒の取り組みにも大きな励みとなりました。

チリ共和国への短期研修スタート

平成24年9月、日智経済委員会チリ側会長が来校した際、本校情報ビジネス科の取り組みに深く感銘を受け、チリ共和国への短期留学(研修)を提案され、今年3月から実施しています。これは、平成24年度から3年間継続して行われ、生徒3名と教員1名を招待するプログラムです。3週間の短期研修を終えた生徒たちは、チリ共和国の素晴らしさを肌で感じ、とても有意義なものになったと話しています。



ピニェラ大統領来校



チリ短期研修



救出されたモアイ像

世界遺産の島からモアイ像到着

本校情報ビジネス科の取り組みは、チリ国民の気持ちをも動かし、チリ共和国から新しいモアイ像が寄贈されることになりました。このモアイ像は、世界遺産の島イースター島の石を使い、現地の制作者が無償で制作してくださいました。東京や大阪でのお披露目式典を経て、平成25年5月25日に南三陸町に無事到着しました。そして、このプロジェクトに関わったチリ国や日本の多くの方々が出席し、盛大に贈呈記念式典が執り行われました。本校での小さな取り組みが、このような大きなプロジェクトに発展したことは、大変すばらしいことであり、とても光栄なことです。これを機会に、南三陸町の復興が加速することを願っています。



開眼式



制作者と生徒



チリ人と生徒